第11回 大阪鉄道病院

外部委託を活用して病院薬剤師の時間を創出

板橋祐己 ● エム・シー・ヘルスケア株式会社 事業開発部 コトセラ事業ユニット

病院薬剤師の人材難は深刻だ。実際に需要のある業務にもかかわらず、人手不足のため実施できないといった話もよく聞かれるが、その対策として薬剤師のノンコア業務をパートナー企業に委託して、薬剤師の時間創出と管理業務の精度向上をめざす動きも進んでいる。今回は2024年2月から外部委託（エム・シー・ヘルスケア株式会社）による新しい運用を開始した大阪鉄道病院の取り組みについて薬剤部長の小牟田豊氏にうかがった。

大阪鉄道病院

住所：大阪府大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL：06-6628-2221
病床数：303床
診療科：23科
・大阪府がん診療拠点病院
・紹介受診重点医療機関
・（公財）日本医療機能評価機構　認定病院
・卒後臨床研修評価機構（JCEP）臨床研修評価　認定病院

経験豊富な薬剤師の力と若手薬剤師の行動力

大阪鉄道病院は職域病院として発足した病院で、2025年に創立110年を迎える。現在は西日本旅客鉄道株式会社直営の大阪鉄道病院（303床）として急性期医療から回復期リハビリテーション、緩和ケアまで切れ目のない医療を提供できる「地域と時代に求められる多機能型急性期病院」として、地域医療の中で重要な役割を果たしている。

薬剤部は現在、小牟田豊部長以下17人（正社員15人、契約社員2人）体制で、50代の経験豊富な薬剤師と20～30代の若手が融合した組織となっている。「当院は若い年代の薬剤師が多いですが、助け合いの風土が根付いていて、活力・モラルともに高いメンバーばかりです。実はベテラン職員3人の退職が重なった厳しい時期を乗り切ってきた仲間たちでもあります」と、小牟田部長は説明する。

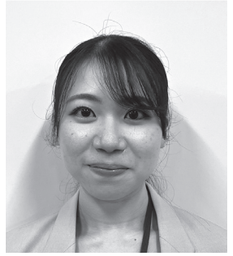
大阪鉄道病院　薬剤部長
小牟田（こむた）豊氏

病院薬剤師が担う役割は多岐にわたり、専門的かつ高度な業務も多い。しかし、小牟田部長は「基本的な考え方は属人性の排除です。経験のある先輩方がいなくても、それぞれの専門性を活かしながら業務推進ができる組織をめざしてきました」という。一方で、これまで医師が行ってきた入力業務などの業務移管も相次ぎ、薬剤部全体として業務過多になっていた。

医薬品の調達支援がきっかけでスタート

小牟田部長によると、大阪鉄道病院で真っ先に話題に上がったのは医薬品調達の外部委託だった。「当院の総務課に医薬品に精通した職員がおり、卸業者との交渉なども一手に引き受けていました。しかし定年退職が迫り、エム・シー・ヘルスケアの林宏偉さんと波多野瞳さんに薬剤部向けメニューの提案を依頼した形」という。すでにエム・シー・ヘルスケアは医療材料のSPD業務で10年の実績があったため、院内での意思決定はスムーズだった。「医薬品の購買にかかる事務と価格交渉を委託でき、最適な価格で医薬品を取得できるのが魅力でした」と振り返る。

もう一つ大阪鉄道病院が委託したのが薬剤師の業務支援だった。「エム・シー・ヘルスケアの佐々木祥太さん（医薬品事業ユニット）なども加えて検討した結果、非資格者でも可能な薬剤部業務の一部を委託することにしました。実際の運用が始まってすぐに分かったのですが、段取りや時間管理が的確で、仕事が丁寧だと感じました。院内では電話対応や一般事務などの研修が必ずしも充分とは言えず、職員にとって刺激になる」と感心している様子だった。



エム・シー・ヘルスケア株式会社
大阪営業所（大阪鉄道病院担当）
波多野瞳氏

エム・シー・ヘルスケア株式会社
大阪営業所（大阪鉄道病院担当）
林　宏偉氏

薬剤師の「余力の確保」未来につながる試金石に

小牟田部長はさきほど議論してきたばかりという院内資料を手にとりながら、「薬剤部門の実績の一つである『薬剤管理指導料1・2』などの件数がここ半年間で倍増しているなど、本来業務に時間が使えているのは診療報酬の実績からもうかがえ、すでにノンコア業務を委託した成果が出始めています」と手応えを感じる。

ここで小牟田部長は「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト／シェアの推進について」（21年9月30日付第16号　厚生労働省医政局長通知）を引きながら、「余力の確保」の大切さを強調した。「たとえば、『がん薬物療法体制充実加算』は診療報酬収入として月に1回100点ですが、患者さんにとって副作用の軽減やアドヒアランスの向上につながるほか、病院薬剤師としての経験も広がり、『医師の働き方改革』にも貢献できます。当院では本年7月1日から『薬剤師外来』として、医師の診察前に病院薬剤師が患者面談を行うことが決まり、外来がん治療専門薬剤師3人が奮闘中です。こうした未来につながる業務を展開する上でも『余力の確保』は必要で、エム・シー・ヘルスケアの方々との連携を大事にしていきたいです」と述べた。

最後に薬剤部のこれからについてうかがうと、「これまで見学した他病院の進んだ事例に学びながら業務効率化に取り組んでいきたいですし、次世代型部門システムなどの新しい調剤機器の導入で機械化をさらに推進していきたい」とのこと。医薬品調達はまだ日が浅い取り組みとしながらも、「将来的には地域共同購入なども視野に入れながら最適な医薬品調達を追究することにも関心があります」という。こうした議論は今後のコミュニケーションを通じて深めていく。

薬剤部門サポートに関するお問い合わせ（エム・シー・ヘルスケア株式会社）
メール：iyakuhin_jigyo_ut@mc-healthcare.co.jp
（担当者より折り返しご連絡させていただきます）

聞き手
エム・シー・ヘルスケア株式会社
事業開発部コトセラ事業ユニット
板橋祐己

いたばし・ゆうき●医療機関向けウェブサイト「コトセラ」は医療機関の働き方改革、経営改善、業務効率化を叶えるための最新ソリューションを紹介する比較サイトで、「もっと患者さんのために時間を使えるように」をコンセプトにしている。現在、同サイトのコンテンツ制作やPR業務に従事する。
https://www.cotocellar.com/